

デルフィニウムのエンマコオロギ（新寄主）

令和7年7～10月にかけ、日高管内のデルフィニウム栽培ハウスにおいて、定植した一部の苗の生育が停滞し、甚だしい場合には萎れや枯死に至った。このような株を掘り取り、根を観察したところ、根量は極めて少なく、根長は2 cm程度にとどまり、細根は食害によりほぼ失われていた。株の周辺にはエンマコオロギ *Teleogryllus emma* (Ohmachi et Matsuura) の発生が目立ち、それらは灌水チューブと地面との隙間や地表面の土塊の間に坑道を掘り、潜んでいるのが観察された。苗はその食害により根を地際部からごく浅い部分で切断され、被害に至ったものと考えられた。当該ほ場において、これと同様の被害は令和5年の夏期から認められており、同じくコオロギの発生も目立っていた。

（中央農試・日高農業改良普及センター）



上：エンマコオロギによるデルフィニウムの加害の様子

下：エンマコオロギ（いずれも中央農試 小野寺原図）